



学校図書館だより



No.3

2024.6.7(金)

小鹿野町立小鹿野中学校 図書室

梅雨の時期は雨の音をBGMに読書はいかが？

今月は『人権について考える』をキーワードにおすすめの本を紹介します。

◎平和のバトン—広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶 /弓狩匡純【著】 広島平和記念資料館【協力】

2007年にはじまったプロジェクト、被爆体験証言者の記憶を、広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが一年をかけて油絵に描いて記録する、『次世代と描く原爆の絵』。証言者と現代の広島で今を生きる高校生たちが戦争や原爆を見つめなおしていくさまを綿密に取材して描いた、平和について考えるノンフィクション作品です。2020年に中学生課題図書に選定されました。

◎10代から知っておきたい女性を閉じこめる「ずるい言葉」/森山至貴【著】

女性なら一度は掛けられたことのある言葉、そんな日常的に聞いている言葉もひょっとしたら「ずるい言葉」なのかもしれません。同じシリーズの『10代から知っておきたいあなたを閉じこめる「ずるい言葉」』も必読です。

◎女子サッカー選手です。そして、彼女がいます/下山田志帆【著】

自分の性別に関して、もし人とはちがうなにかを持っていることでモヤモヤしている気持ちがある人は、そっと開いてみてください。この本はひとりの女子サッカー選手が伝える「自分やだれかを大切にするため」のお話です。

☆中学校の授業でネット中傷を考えた—指先ひとつで加害者にならないために /宇多川はるか【著】

私立開成中学校の国語の授業で取り上げられたテーマは「ネットの誹謗中傷」。殺人事件に関与したというネット上のデマに苦しめられた体験を綴った、スマイリーキクチ氏の『突然、僕は殺人犯にされた』を課題図書に、思考をめぐらせ、考えをまとめていく生徒たち。言葉の暴力による「加害者」にならないための、全六回にわたる授業を完全再現。巻末にはリアリティ番組『テラスハウス』に出演した際の言動がネット上で批判の的となり、自ら命を絶ったプロレスラー・木村花さんの母・響子さんが千葉県の小学校で行った特別授業の全容も掲載されています。SNSが原因で起こった様々な悲劇を他人ごとにしないうために、読んでおきたい一冊です。

☆生きるぼくら/原田マハ【著】

いじめを受け、ひきこもりだった麻生人生。蓼科でひとりぐらしを続ける人生の祖母、中村真麻。対人恐怖症の中村つぼみ。田んぼから三人は前をむいて歩み始めた—。収穫のとき、それぞれの心に温もりが実る。山本周五郎賞作家の原田マハさんが描く感動の成長小説です。

こちらに紹介した本の◎は、1階の人権コーナーに展示中です。☆は、図書室の人権コーナーで展示しているおすすめ本です。是非手に取ってみてください。

